

Amir Tsarfati 氏 中東アップデート 2016年 12月 27日公開
オバマの復讐第2弾、間もなく！

イスラエルのガリラヤより、シャローム！今、外は嵐ですが、イスラエル国内の嵐は天候以上にはるかに激しくなっています。先週金曜日（2016年12月23日）、国連安保理で通過した決議について、イスラエルの空気はご理解いただけると思いますが、かなりピリピリしたものになっています。事実、我々は第2弾を覚悟しています。「巧みに計画され、指揮された第2弾」、私はこれを、バラク・オバマ政権による「外交政治的テロ攻撃」と呼んでいます。アメリカは長年、イスラエルのユダヤ・サマリヤ地区での入植には片っ端から反対してきました。それに対しては驚きません。これは、我々も知っていることで、アメリカ国務省とほとんどのアメリカ大統領の伝統的な立ち位置ですから。それ自体は問題ではないのです。理解すべきは、もしこれがアメリカ国務省次第であれば、主権国家としてのイスラエルは存在すらしていません。1948年当時、マーシャル国務長官は「トルーマン大統領がもしユダヤ国家を支持するなら、辞任するように」と脅迫しました。別な言い方をすれば、初めから何らかの形で、アラブの怒りを買うことに対する恐れがあったということです。アメリカ国務省の中では、イスラエル国家を支持すること自体、話し合いのテーブルにはありませんでした。しかし、神に感謝すべきは、トルーマン大統領がそれに屈することなく、その後の話は皆さんもご存じの通りです。そしてアメリカは、長年イスラエルの最強の味方でした。しかし、その期間にも我々は、アメリカがいつかユダヤ・サマリヤ入植を受け入れるだろうなど、幻想は抱いていませんでした。

しかし決議は文字通りアメリカによって受け入れられただけでなく、アメリカによって推し進められ、アメリカによって取りまとめられたのです。アメリカの政権がパレスチナと共謀し、そしてパレスチナが、アンゴラやセネガル、ウクライナなどの非常任理事国の背中を押したという証拠があります。彼らも棄権しようとしていたところ、パレスチナが賛成に投票するようにと強制したのです。アメリカは——私は「臆病者の行動だ」と思っていますが、——バラク・オバマは、それほど支持するのなら、賛成票を投げればよかったのです。棄権している時点で、賛成しているのも同然なのですから。大声で「賛成！」と叫んでいるようなものです。実際何が起きているのかをご説明しますと、この決議の草案に実際に書かれている文章は、パレスチナ人街に囲まれた西岸地区中央とエルサレムの西壁、嘆きの壁のユダヤ国境を区別するものではなく、基本的に、世界が賛成したのは、西壁やエルサレムのユダヤ人地区でのイスラエルの存在を「不法」「占領地域だ」とするものです。これは滅茶苦茶です。と言っても、聖書的な目的では、これは滅茶苦茶ではありません。良く考えてみれば、将来的に起こるすべての対立は、エルサレムに関することだからです。聖書ではゼカリヤ書12章、14章で予測しています。最後の戦いが起こるのはエルサレムであり、エルサレムが「重い石」となります。ヨエル書3章によれば、エルサレムの地が分断され、ユダヤの人々が散らされたことについて、神が世界中の国々を裁かれるとあります。ですから、驚いてはいません。私はとても憤慨していますし、腹立たしく思っています。任期終了の2週間前に、中東の親友をこんなふうに刺すとは！私は個人的には落胆しましたが、バラク・オバマには何も期待していません。

しかし、今回お話ししたいのは、すでに投票済みの決議についてではなく、イスラエル、特にベンジャ

ミン・ネタニヤフに対する復讐の第2弾です。彼らは1月15日にパリでの和平会議を予定しています。考えてみてください。新しいアメリカ大統領就任の5日前に、旧政権がパリでの和平会議を指揮して、イスラエル・パレスチナ和平の概要、道しるべを敷こうとしているのです。覚えておいてください。その会議には、イスラエルもパレスチナも参加しません。基本的に彼らが敷く概要は、イスラエルにとっては受け入れがたいものであるのは明らかです。なぜなら、我々がパレスチナ側に伝えているのは、「まずテロ攻撃を止めろ」「まず扇動するのを止めろ」「まずそういう類のすべてを止めろ」ということです。そうして初めて、他の事について話せるのであって、子どもたちに戦争や殺人、「ユダヤ人を殺せ」と教え、「ユダヤ人は猿で、ブタ」だと教えている相手と、座って話し合うことはできません。

つまり何が言いたいのかというと、世界は何度も何度も集まって中東に平和をもたらそうとします。しかし彼らの復讐第2弾では、高確率で、ケリー国務長官によって密かに立案された決議が概要が、何らかの形で国連安保理で解決案として示されたのではないかと、我々は見ています。そうなると、イスラエル・パレスチナ問題で、イスラエルを法で縛ることになるのです。さて、これに関しては、さらに詳細を12月31日にお話しする予定です。ライブQ&Aで、現在起こっていることを含めて、あらゆるご質問にお答えしていきたいと思っております。今起こっていることと、これからどうなるのか、その形相についてさらに深くお伝えしたいと思っております。しかし、今お伝えしたかったのは、オバマによって第1弾は実行され、成功したということです。第2弾は、我々の政権がどうあるべきか、オバマ政権に利用されたヨーロッパが決める、という茶番劇がまもなく繰り広げられようとしています。ただ、皆さんを励ましたいのは、神は御座についておられ、これら全ての事をご存じで、これら全ての人々を裁かれるのです。聖書には、詩篇2篇にこう書かれています。

2 治める者たちは、相ともに集まり、

(詩篇2:2a)

世界の指導者たちが騒ぎ立つ時は要注意です。なぜなら、彼らが騒ぎ立つ時、多くの場合は、神や神の民、神に油注がれた人々に敵対して、立ち上がるものだからです。そして、聖書にはこうあります。

「なぜ彼らは騒ぎ立つのか？」

2 主と、主に油注がれた者と共に逆らう。

(詩篇2:2b)

そして今回の場合は世界中がイスラエルに敵対して立ち上がっています。現在進行中のことに対して、私は憤ってはいますが、驚きはしません。むしろ、将来を見据えて、とても落ち着いてリラックスしています。なぜなら、私を贖う方は生きておられるということと、この話の結末を知っているからです。聖書には、終わりの時には全イスラエルが救われると書いてあります。世界中の軍隊がイスラエルの山々で敗北することを、私は知っています。ヨエル書3章から、世界中の指導者たちが、彼らが行った2つの事のために、神によって裁きを受ける、ということも知っています。二つの事とは、

① 神の民を痛めつけたこと

② イスラエルの地を分断したこと
です。

だから、私は驚かないのです。もちろん、イスラエルが最も親しい国、我々を支持するはずの国が、このようなことを目の前でやるのを目撃し、とてもがっかりではあります。アメリカの人々も、これに関して憤慨している、ということも私は知っています。こんな男に投票し、こんな政権に投票したのですから。今起こっているのを見てください。オバマが今、最後の最後になって中東に対してやっていることは、まるで手りゅう弾を投げつけて逃げ去るようなものです。もし、彼が、まだ十分に中東を破壊していないとすれば、彼は間もなく行うでしょう。ではなぜ、中東の破壊なのでしょう。それは、今の今まで「和平」と言えば、「もしそちらが和平を提供すれば、我々は土地を提供しましょう」というものでした。今現在、オバマはすでに世界に向けて、「これはイスラエルの土地ではない」と言っています。そんなわけで、もはや我々は土地を平和と引き換えにすることも出来ないのです。もし、この土地がパレスチナのものなら、世界はこれが「パレスチナのものだ」ということに投票したのですから。それはつまり、そこに平和のための土地はない、ということで、彼らは国際的決断に胡坐をかいて、平和を提供する必要はないのです。ということは、オバマが和平交渉の土台を殺してしまったのです。彼は、ごくごくわずかなチャンスを殺してしまいました。中東に平和を築くチャンス——仮にわずかに存在していたとして、そのチャンスさえ、彼はこの決議によって殺してしまったのです。

イスラエルは非売品、エルサレムは売り物ではなく、ユダヤ人地区も売りに出されていません。嘆きの壁は、永遠に我々のものです。我々がそこを決して動かず、決して立ち退かないなら、彼らは我々と対峙しなければなりません。残念ながら、世界は虚しい決断について理解しなければなりません。イスラエルに敵対する決議が 200 以上あるのに対して、シリアにある決議はたったの 8 です。シリアは、50 万人近くの人々を惨殺しています。ここイスラエルではなにも起こっていません。そのことで、これが霊的な強迫観念であることを示しています。ただ、馬鹿馬鹿しいのを飛び越えています。イスラエルに敵対するものは霊的欺きであり、サタンの欺きです。特に、神の民が我々の祖国である神の地に戻ってきたために、サタンは激しく憤っているのです。パレスチナはただの道具に過ぎません。アラブ界の手先です。この国で、我々の存在感を無効にしようとする、イスラエルの敵の手先です。

皆さん、どうか元気を出してください。現在アメリカは深夜、ヨーロッパは朝、アジアは午後です。2016 年が終わりに近づき、2017 年に突入しようとしています。どうか真理を握りしめ、できる限り主に近づいてください。なぜなら、2017 年は、花嫁は携挙の準備が整っているべき年だと、私は思うからです。花嫁は準備を整え、主を呼ぶ時です。「来てください。」と。

17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」

(黙示録 22:17)

主は来られます。それでも私たちが「来てください。」と言わなければなりません。そして「私たちは準備が整っている」と感じない限り、それを言わないでしょう。だから差し迫って皆さんにお伝えしたいの

は、強くあれ。主の御名を呼び求めましょう。世界の多くのクリスチャンが、現在起こっていることに不満を抱いているのは、私も知っています。もちろん、私も満足はしていません。でも、私は皆さんを慰めたいと思います。これらの事は、2800年以上前にイスラエルの預言者によって伝えられていたことです。ですから、驚くには値しません。そして、メシアの来臨について実に正確に伝えた、同じ預言者は、主の来臨についても正確です。だから私たちは、主の御言葉を深刻に受け止めることです。もし彼ら預言者が「イスラエルがこの地に戻ってくる」と言ったら、彼らの言葉は正しく、私たちは戻ってきました。また彼らが「イスラエルは攻撃される」と言ったら、それも正しく、我々はまさに攻撃されようとしているのです。また「イスラエルの敵は敗北する」と彼らが言ったのなら、それも正しく、敵は敗北するのです。私たちは疑うべきではありません。私たちは自身を見つめて、一つの問いに自問自答するべきです。「私たちはキリストの花嫁として、主が来られる準備ができているだろうか？」と。

私たちの Facebook 活動について、一つお知らせしておきます。残念ながら、Facebook が私の個人的なページを承認しないので、驚きはしませんが、ハッカーか何かが、わたしの名前を使って何もできないようにしました。Amir Tsarfati の名前で公式なページにしたかったのですが、Facebook がそれを承認しないため、このページを削除して、すでに承認されている Behold Israel に集中していこうと思います。そういうわけで、もし Facebook の Behold Israel をフォローしていない方はフォローしてください。フレンドではなく、fb ページです。Facebook Live やニュースアップデートを受け取るためには「いいね！」(like!) してください。また、インスタグラムやツイッターもフォローしてください。それから、ウェブサイトもご覧ください。

今日は 45 人のアメリカの方々を案内中です。ほとんどの方がカリフォルニアから来られました。これが終わるとすぐにフィリピンに飛んで、2017 年のツアーを開始します。マニラの南部と北部、二つのメガチャーチでお話しします。メッセージのタイトルは「御霊も花嫁も言う。『来てください。』」内容は、携拳の準備をすること、携拳とは何か、そして、私たちは備えをしなければならないということについて。フィリピンには 2 週間滞在してから、イスラエルに戻ります。どうか引き続き私たちのためにお祈りください。お祈りの支えと、物質的な支援にも感謝します。私たちは 2017 年に向けてすっかり準備が整い、とてもワクワクしています。

残念ながら、多くの方が私のところにニュースソースを持ってきて、私の意見を問われますが、ほとんどの情報源が酷いものです。それがクリスチャンにとって、こんにち最大の問題で、どこで正確な情報入手すれば良いのか？これがまさに私が Behold Israel を始めた理由です。ですから、Behold Israel の活動が拡大することを願っています。毎週の動画や、テレビ番組、ラジオ番組にも定期的に出演したいと思っています。それから、Facebook Live Message も今と同様、コメントも可能な限り行いたいと思っています。それによって、人々が現在の時と季節を理解できるようにしたいのです。

ガリラヤより、愛をこめて。全てのことに感謝します。クリスマスも終わってしまいましたので、どうか良いお年を。その前に Q&A で皆さんにはもう一度お会いします。Facebook で 12 月 31 日、イスラエル時間の午後 9 時、アメリカ西海岸では午前 11 時、東海岸では午後 2 時、アジアでは残念ながら夜中になっ

てしまいますが、1月1日ご覧いただければと思います。

God bless you!

I love you all!

強くあれ！信仰を保ちましょう！

I love you!

Shalom from Galilee!

Bye-bye!

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシアニックジューAmir Tsarfati 氏が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by MIHO